

ドラマ「ドラゴン桜」における受験地獄

序論

日本では教育が重要視されているのである。その証拠として義務教育という政府の計画がある。義務教育期間は9年間で小学校6年、中学校3年からなるのである。2001年における小学校での義務教育就学率は100%、高等学校への進学率は96.9%、大学への進学率は48.6%である。

高校を卒業してから大学入学希望者は、入学受験に合格しなければならない。有名な国公立大学への入学希望者数が当該大学の受入れ定員より多いため、競争が激しいのである。2002年では東京大学入学希望者が14272人で、その内の3243人しか入るひとができなかったのである。そのため、大学の入学受験は受験地獄と呼ばれるのである。

受験というのは試験を受けること、地獄というのは奈落、ナラカである。それで受験地獄というのは入学受験が非常に困難であるということを経験的に言うものである。入学試験が困難で、競争が激しいため、入学希望者は、受験のため、自分にその青春を犠牲にして、その準備に取りかからなければならないのである。

日本人は学歴社会と言われるように、学歴を重要視する国民である。そのため、人々は競争していい大学に入ろうとするのである。なぜならば学歴社会では人間の社会的地位や収入、さらには人物の評価までが学歴に

よって決められるのである。人の学歴が高ければ高いほどいい仕事に就くチャンスが多くなり、社会的地位が高くなるのである。

本論

本論文では分析を三部に分ける。最初、ドラゴン桜における学歴社会を分析する。次に東京大学の入学受験の学習法を分析し。最後、受験地獄におけるクラスメートの影響を分析する。

社会は龍山高校の生徒たちを将来のない人間だ思い、彼の人間性を見下しているのである。また、彼らをトラブルの源、家族の恥だとみている。そして、龍山高校を愚かの骨頂怠惰だと見ているのである。

東京大学の入学受験の学習法は：

- スパルタ式：生徒たちが10日間学校で合宿をし、その間一日に16時間学習する。この時、制限された時間で問題を解き、脳の働きを刺激する栄養のあるものを食べる。
- 詰め込み式：生徒たちはできるだけたくさんの問題を解くことを強いる。最低の成績を収めた生徒にバカ鉢巻きをしめさせる。
- 暗記力をつけるため、また学習を容易にするため、トランプ、マンガ、歌を使う。
- スクラム式：生徒たちは絵を描き能力、きれいに字を書く能力、内容をまとめる能力を要するメモリツリーを作る。この場合、一人の過失が他の人の努力を無するのである。

- 受験日が間近になると、生徒たちは 暗記するものを紙に書いて、トイレの壁、冷蔵庫に貼る。受験前日に生徒たちはかならず寝る前にホットミルクを飲むべし、消化のよいものを食すべし、38℃~40℃のお風呂で半身浴すべし、暗記物は寝る直前に集中してやるべしである。

最後は受験地獄におけるクラスメートの影響である。これには二つの事柄がある：

一つは、香坂が過失をした際、他の生徒も同じ責任を持っているので、その処罰として、生徒たちは練習問題を通常な倍やらなければならないのである。

二つは、クラスメートはクラスの一部であり、クラスメート同全は助け合う義務がある。生徒たちは水野を助ける義務と東大受験の準備への責任との間に言わされているのである。

結論

龍山高校の生徒たちは学歴を重んずる社会に、自分たちもできると見せるため、最も受験競争の激しい大学、東大の入学試験を受けたのである。東大の入学試験を受け、合格すれば社会における地位も上がるのである。東大の試験に合格するため、生徒たちはさまざまな学習法を受けるのである。

RIWAYAT HIDUP PENULIS

Nama: Yustin Diana Sutanto

Alamat: Kolonel Sugiono No.43 Purworejo 54111

Tempat/ Tanggal Lahir: Purworejo/ 1 Juni 1986

Riwayat Pendidikan

1989-1992 : TK Maria

1992-1998 : SD Maria

1998-2001 : SLTP Bruderan

2001-2004 : SMU Stella Duce I

2004-2008 : Universitas Kristen Maranatha Jurusan Sastra Jepang